

「地球社会の持続可能性向上」に貢献する 世界トップ研究大学

超成熟社会の持続的発展へ



超成熟社会の課題解決・SDGs達成に向けた研究・教育連携

GULF APRU APAIE CEMS T.I.M.E. U7+Alliance RU11

▲国内外 大学コンソーシアム

総合研究力（医薬・理工・社会・人文科学）を活かした産学連携・国際共同研究

21COE・GCOE リーディング大学院 世界展開力 研究大学強化促進 オープンイノベーション

▲文部科学省補助事業

得られたアウトカム 数値・実績は主に2019（令和元）年度

教育・研究

- ・KGRを中核拠点とする「長寿」「安全」「創造」の3クラスターにおける国際的文理融合研究の進行
 - APRU Aging Population会議
 - サイバーセキュリティ国際シンポジウム
 - ・クロス・アポイントメント制度による海外副指導教授制の効果の兆候
 - 副指導教授からの本学教員・学生に対する高評価
 - 国際共同研究/共著論文創出
- ・学生の海外留学/モビリティの増加
 - 受入数：2,000+ /派遣数：1,400+
 - 協定数：350/学生交換：143校（32カ国・地域）
 - 短期プログラム：+
 - ダブルディグリープログラム数：27
 - 英語による学位取得プログラム（GIGA・PEARL）
 - GIC（英語によるコース）科目：400+
 - 学事システムの国際化（GPA/4学期制）
 - バディプログラム
 - 一貫教育との連携
 - 初等中等教育段階での国際プログラム

国際広報・レピュテーションマネジメント

- ・英語による情報発信量の増加と質の向上
- 翻訳体制・システム（Kトラ）構築
- ・国際的プレゼンスの向上
- 学内での各種国際会議/英国における日本留学フェア（JIE）主催

IR

- ・世界大学ランキング 100位以内
- QS 分野別ランキング 2019：
 - 生物学・解剖学 36位
 - 社会科学・経営学 82位
 - 歴史学 51-100位
 - 政治学・国際関係学 51-100位

ガバナンス

- ・グローバルな視点を取り入れた事業計画策定
- GAC（グローバル・アドバイザー・カウンシル）運用
- ・グローバル本部設置
- グローバル対応一元化・IR・国際広報機能強化
- ・協生環境推進憲章・SDGs対応
- THE インパクトランキング 2019：91位
- ・卒業生ネットワーク

財政

- ・事業終了後自走化財政基盤：基金58億円（最終90億円）

組織

- ・人事システムの柔軟な運用
- クロス・アポイントメント制度による海外副指導教授任用
- 年俸制による有力なシニア教授雇用
- ・事務職員の高度化
- 海外研修・国内集合研修・OJT・協定大学との職員交流

SGU事業
基金

福澤理念

「独立自尊」「半学半教」「自我作古」



特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

1. クロス・アポイントメント制度による海外副指導教授

平成 26(2014)年度から、クロス・アポイントメント制度により海外副指導教授を特別招聘教授(国際)/Guest Professor (Global)として任用し、本事業により人件費を助成している。海外副指導教授とは、主として、本学大学院博士課程の学生の研究指導を、当該学生の主たる指導教員と共に研究を行う研究者である。

本学は、構想「実学(サイエンス)」によって地球社会の持続可能性を高める」を実現するために、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI: Keio University Global Research Institute)の中に3つのクラスター「長寿」「安全」「創造」を設置してさまざまなプロジェクトを推進しているが、海外副指導教授には、受入教員や指導対象の学生と実施する共同研究、合同授業やワークショップ、あるいは、共著論文の執筆などを通じて、広い意味で、各クラスターでの活動への貢献を求めている。

3つのクラスターは、いずれも自然科学から人文社会科学まで包含し、実質的に本学のどの研究科の教員も受入教員となることが可能である。短期・長期の滞在のほか、オンラインによる遠隔指導も認める柔軟な制度として設計されている。令和元(2019)年度末までに、累計 408 名の海外副指導教授を任用した。令和2(2020)年8月に実施した調査結果(8月23日時点)によれば、本学の教員、海外副指導教授双方にとって満足度が高く(回答者の70%以上が5段階の4または5と評価)、その後の共同研究、共著論文の創出や、学生の海外留学につながった事例も数多い。世界大学ランキングに反映されるには時間を要するとしても、長い目で見れば、本学の国際的なレピュテーションの向上や、被論文引用数の向上に資する試みであると確信している。



2. 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート: KGRI(活動事例)



平成 28(2016)年 11月に設立された KGRI は、学内の関連する教育研究分野と密接に協力しながら「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターでの教育研究活動の成果を広く国際的に発信することによって、本学の事業構想である「地球社会の持続可能性向上」に貢献し、かつ、本学のグローバル化を推進することを目的としている。令和元(2019)年度末時点で、3クラスターに 17 プロジェクトが設置され、それぞれ活発に活動を展開している。たとえば、長寿クラスターに設置した「APRU 人口高齢化研究ハブ」は、APRU (Association for Pacific Rim Universities, 環太平洋大学協会)加盟大学の人口高齢化研究のグループと協力して、令和元(2019)年 10

月に国際会議を主催した。国内外から 100 名超が参加した。また、APRU に加盟する約 50 大学を中心とする大学院生・若手研究者の論文発表とポスターセッションの機会を提供し、優秀者 4 名を表彰し助成金を授与した。

https://www.keio.ac.jp/en/about/global/apru_population_aging_conference_report.pdf



3. GIC センター(Center for Global Interdisciplinary Courses)

国際的かつ学際的な人材育成の拠点である GIC センターでは、平成 28(2016)年 4 月から、全ての学部の学生が履修できる英語(またはその他の外国語)による授業を提供し、一定単位を取得した学生に修了証を与えるプログラムを開始した。GIC 科目にはコア科目(基礎的な科目)とリサーチ科目(専門的な科目)があり、卒業時まで両者の取得合計が 40 単位以上となった学生に修了証が授与される。令和元(2019)年度の修了者数は 28 名で、そのうち、成績優秀者 5 名が表彰された。

英語で卒業が可能な経済学部 of PEARL(Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership)、総合政策学部・環境情報学部の GIGA(Global Information and Governance Academic Program)とは別に、GIC は、将来、主に英語を使って国際的なキャリアを目指したい意欲ある学生に対し、効果的な学習機会を提供している。各学部で共有可能なカリキュラムを設計し、相互に連携強化を図ることで、学内に散在する「知」の集約が可能となっている。これにより基礎教育と専門教育、学部と学部、あるいは大学と高校の間をつなぐプラットフォームとなっている。毎年約 8,000 名以上の学生が履修している。令和元(2019)年度からは、主に学部 1 年生向けに、英語で受講するノウハウの提供や受講者のコミュニティ形成を目的とするワークショップなどを開催している。

